

### ●ディートリヒ・ボンヘッファー

「他のクリスチャンの存在は、信仰者にとって他に類を見ない喜びと力の源です。…囚人、病人、寄留者であるキリスト者は、同じ兄弟との交わりの内に、三位一体である神の恵み深い臨在のしるしを見ます。孤独の中で、出会った旅人同士は互いの内に存在するキリストを認め、主にお会いするように、敬意と謙遜と喜びをもって、互いを迎え入れ合います。彼らは互いの祝福を、主イエスキリストの祝福として受け取るのです。もし兄弟と兄弟が出会うたった一度の機会にさえ、多くの祝福と喜びがあるのなら、神の御心によって、日々他のクリスチャンとの交わりに生きることを許されている者には、どれほど計り知れない富が開かれているのでしょうか。もちろん、孤独な人にとっては言葉で言い表せない素晴らしい神の贈り物であっても、それを日々受けている人には容易に軽んじられ、踏みにじられることがあるのも事実です。兄弟との信仰者の交わりは恵みの賜物であり、神の国の賜物であることを、私たちは忘れがちです。それはいつでも取り去られる可能性があり、完全な孤独から私たちを隔てている時間は、実は短いのかも知れません。それゆえに、これまで他のクリスチャンと共に、信仰生活を送る特権に恵まれてきた者は、心から神の恵みを誉め称えましょう。ひざまずいて感謝し、宣言しましょう。兄弟たちと共に生きることを許されているのは、恵み、それ以外にないのです。」

「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」(使徒 2:42)

「あなたがたに書くべきことがたくさんありますが、紙と墨でしたくはありません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語りしたいと思います。私たちの喜びが全きものとなるためにです。」(2 ヨハネ 12)

「兄弟たちよ。私たちは、しばらくの間あなたがたから引き離されたのでーといても、顔を見ないだけで、心においてではありませんが、ーなおさらのこと、あなたがたの顔を見たいと切に願っていました。」(1 テサロニケ 2:17)

「私は、あなたの涙を覚えているので、あなたに会って、喜びに満たされたいと願っています。」

「何とかして、冬になる前に来てください。」(2 テモテ 1:4; 4:21)

### ○聖書が描く信仰者の“交わり”：

#### 1. 交わりの基盤とは？：\_\_\_\_\_

※1 コリント 6:17; 12:13

「しかし、主と交われれば、一つ霊となるのです。」

「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」

※ガラテヤ 3:26-28

「あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。」

※1 ヨハネ 4:19; 5:1

「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。」

「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」

「交わりが最も愛おしいものであるとき、あなたは他の人々とも交わりを持ちたいと最も強く願います。あなたの交わりが本当に御父と御子イエス・キリストとのものであるとき、あなたは全てのキリストにある兄弟姉妹とその祝福を分かち合うことを心から願うのです。」(チャールズ・スポルジョン)

## 2. 交わりの本質とは？： \_\_\_\_\_

※使徒 2:41-42

「そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」

※使徒 2:44-47a, 47b

「信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともし、神を賛美し…」

「…すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」

「他のキリスト者との共同生活に足を踏み入れるよりずっと前、神が交わりの唯一の土台を築いてくださり、神がイエス・キリストにあって、一つのからだに結び合わせてくださったからこそ、私たちは要求する者としてではなく、感謝して受ける者として、その生活に入ります。私たちは、神が私たちのために為してくださったことに感謝するのです。神の召し、赦し、約束によって、生きる兄弟を与えてくださったことに感謝します。神が与えてくださらないものに不平を言うのではなく、日々与えてくださるものに感謝します。もう既に与えられているもので十分ではないでしょうか？神の恵みの祝福の下、罪と必要を抱える中でも共に生きる兄弟たち。どんな日であろうと、たとえ最も困難で苦しい日であろうとも、キリスト者の交わりという神からの贈り物に優るものなどあるでしょうか？罪や誤解が共同生活を重く悩ませるときでさえ、罪を犯した兄弟は、それでも兄弟であり、私もまたキリストの言葉の下に立つ者ではないのでしょうか？彼の罪は、私たちが共にイエス・キリストにおける神の赦しの愛の内に生きることができ、絶えず感謝する機会となるのでしょうか？結果的に、兄弟に対する幻滅の瞬間こそ、私たちにとって比べものにならない有益なものになります。それはどちらもが自分の言葉や行いによって生きることができず、私たちが真に結びつける唯一の言葉と行い、すなわちイエス・キリストにおける罪の赦しによってのみ生きることができ、徹底的に教えてくれるものだからです。」(ディートリヒ・ボンヘッファー)

## 3. 交わりがもたらす益とは？： \_\_\_\_\_

※へブル 3:12, 13

「兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。」

「「きょう」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。」

※へブル 10:24-25

「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」